

マイクロプラスチックについて

浜松市内小学校

川崎さん

三年生のとき、私は、浜松市かんきょうせいさく課の「浜名湖プラスチックごみ学習会」に、お父さん、お母さん、お兄さんと一しょにさん加しました。

む人島にわたって、はんにそこに落ちているごみを集めて、どんな種類のゴミがどのくらい落ちているのか調べました。ビニール、たばこのすいがら、つりの仕かけ、つりばり、ロープ、ぬのなど、いろいろな種類のゴミがありました。

そのとき、私が思ったのは、だれも住んでいないのに、ゴミが落ちていているということは、ゴミが海の中を通ってむ人島に着いたのだから、海の中にもゴミがたくさんあるんじゃないかということなんです。

む人島でみつけたゴミの中には、コンビニエンスストアなどではん売されている、おにぎりのふくろが落ちていました。トングで拾おうとしたらバラバラにくずれてしまって、うまく拾えませんでした。

そのとき、ちょうど近くを通りかかった先生が、

「これがマイクロプラスチックになって、海をよこす原因になるんだ

よ。」

と教えてくれました。

マイクロプラスチックという言葉は、小学校の総合のじゅ業で習っていたので、見たこと、聞いたことはありませんでしたが、マイクロプラスチックになっていくと中のプラスチックを見るのは初めてでした。

マイクロプラスチックとは、太陽の光で、どんどんバラバラになってくれた直径五ミリメートル以下のプラスチックのことです。

総合のじゅ業の中では、海岸のすなを水の中に入れる実験を見ました。すると、すなは全部下にすんで、すなの中にまざっていたマイクロプラスチックが水面にうかんだのを見て、私はとてもびっくりしました。

どうしてびっくりしたかというと、最初見ときはすなだけだと思っていたからです。

その後、すなの中に私もだいたい大さじ一はいくらのすなをおとしたら、五から七こぐらいのマイクロプラスチックがうかんできました。

そのとき、私はとてもこわくなりました。自ぜんがよごれているのはもちろんですが、プラスチックを魚や他の生き物が食べて最後に人間が食べているのです。

ごみやマイクロプラスチックをみんないやがったりこわがったりし

ますが、一人一人がごみを決められた場所にすてるとうかんだんで、
当たり前のことをすれば、この問題は、ふせげると思います。ごみも
マイクロプラスチックも、もともとは、私たち人間が作り出した物で
す。最後まで感じの気持ちとせきじんを持って生活していききたいと
思います。